



コーディネーター

CO新聞

H24.10.17号

HP・掲示用

たくさん 読もう!!



ある女の子が、ひらがな学習を通して清音 50 音読めるようになりました！
さて、次は特殊音節やカタカナの指導へとレベルアップを目指したいところですが、「き・の・う・は、お・と・う・さ・ん・と…」というように、文を読むのにも時間もかかるようです。どうしたら良いのでしょうか？

実は清音（ひらがな）を使って、2 音節「うし」や 3 音節「はさみ」等のような単語を、パッと見て読めなければ、文章を読むことも難しくなります。

文字の固まりとして単語を素早く読めることが、読み速度を上げる基本です。

清音が読めるのに、特殊音節がなかなか習得できない子や文章を読むのに時間がかかってしまう子どもには、初期の「読み経験の不足」が影響していると考えられます。

将来、本や物語を楽しむための読解力を伸ばすために、子どもの発達に応じて、単語などをもたくさん「読む」経験をさせることが大切です。（逢野）



清音（ひらがな）50 音



清音（ひらがな）2 音節



清音（ひらがな）3 音節



濁音、半濁音 特殊音節 など

すらすら読めるようになったら、
チャレンジする文字を増やす。

エー・イー・ピー・アール

オー・エー・イー

A A B R ? O A E ? こりゃなんだ？



本校の入学時の調査票を見ると「AABR」「OAE」と書かれています。ご存知ですか？

これらは「新生児聴覚スクリーニング」と呼ばれるもので、生まれて間もない赤ちゃんを対象に聴力の異常を調べる為に行なう検査です。AABR と OAE という2つの種類があり、病院により置かれている機械が違います。「(聴力の) 反応あり」と出ても異常のあるケースがまれにあって、その逆のケースがあったりすることがあります。出産後すぐの家族の心理的な影響やその後の療育の場などさまざまな課題がありますが、難聴の早期発見、早期療育の為の重要な検査です。

この検査で異常が出た場合「ABR」等の精密検査をします。和歌山県では任意有料の検査ですが、日本の新生児の60%程度が受けていると言われています。（中本）